2023年度　点検・評価報告書

Ⅰ　点検・評価の概要

１．点検・評価の目的

(1)　点検・評価は、以下の目的で行う。

① 教育の質保証のための各学科等での取組状況・成果の可視化と、教育の継続的な改善の支援

② 教育改革委員会で定めた方針の各学科等での具体化・定着に係る状況の確認

２．点検・評価の実施方法

(1)　点検の実施方法

① 学長室は各学科に対して点検の実施を依頼する。

② 各学科の学科長は、点検項目についてその時点での検討・取組状況に関する自己評価を実施し、学長室に報告書を提出する。

③ 報告書の作成に当たっては、所管する各学科について学部長がその作成を監督・支援する。

④ 各学科から提出された報告書は、学長室が内容を確認する。

⑤ 学長室は各学科の報告書の内容を確認後、各学科長と教育改善に向けた対話を実施し、学部・学科の検討状況、課題認識等について確認する。

⑥ 学長室は全ての学科の報告書をまとめ、その内容を外部評価員が確認する。

⑦ 全ての学科との対話を終えた学長室は、当該年度の点検結果を年度内に学長及び教学担当副学長に報告する。

(2)　評価の実施方法

① 学長室は、評価の対象学科に対して、評価を実施する前年度中に、次年度の対象学科である旨の決定通知を行う。

② 学長室は評価の対象学科に対して、評価の実施を依頼する。

③ 各学科の学科長は、点検項目についてその時点での検討・取組状況に関する自己評価を実施し、学長室に報告書とエビデンス資料を提出する。

④ 報告書の作成に当たっては、所管する各学科について学部長がその作成を監督・支援する。

⑤ 各学科から提出された報告書は、学長室が内容を確認する。

⑥ 学長室は各学科の報告書の内容とエビデンス資料を確認後、各学科長と教育改善に向けた対話を実施し、学部・学科の自己評価の妥当性や検討状況、課題認識等について確認する。

⑦ 学長室は全ての学科の報告書をまとめ、その内容を外部評価員が確認する。

⑧ 全ての学科との対話を終えた学長室は、当該年度の評価結果を年度内に学長及び教学担当副学長に報告する 。

３．点検・評価の結果の活用

(1)　学部長・学科長は、点検・評価の結果を教育改善に係る計画・検討に活用する。

(2)　当該学科の学科長は、点検・評価にて顕在化した課題をカリキュラム改善計画に反映する。

Ⅱ　点検・評価における実施項目

点検・評価は以下の4セクションから成る8つの項目で実施する。

１．修得目標の策定・見直し

①　構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

２．カリキュラムの体系性・有効性の確保

①　修得目標に対する体系性の確認　　②　修得目標に対する有効性の確認

３．学修成果及び教育成果の評価

①　学生の修得目標の達成度合いの把握

②　就職率・国家試験合格率の向上に向けた取り組み

③　授業評価アンケートの分析・活用

４．シラバスの作成・改善

①　組織的なシラバスチェックの実施　　②　担当教員間の調整

2023年度　点検・評価報告書における総評

（点検実施学科：28学科）
医学部医学科　　薬学部薬学科
医療技術学部（視能矯正学科　看護学科　診療放射線学科　臨床検査学科　スポーツ医療学科　柔道整復学科）
法学部（法律学科　政治学科）
文学部（日本文化学科　史学科　社会学科　心理学科）
外国語学部（外国語学科　国際日本学科）　　教育学部（教育文化学科　初等教育学科）
理工学部（機械・精密システム工学科　航空宇宙工学科　情報電子工学科　バイオサイエンス学科　情報科学科通信教育課程）
福岡医療技術学部（理学療法学科　作業療法学科　看護学科　診療放射線学科　医療技術学科）

（評価実施学科：5学科）
経済学部（経済学科　国際経済学科　地域経済学科　経営学科　観光経営学科）

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

全学科の9割の学科において、すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っており、さらに、全学科の8割の学科にて、すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている状態となっている。

観光経営学科では、企業の方を招聘した合同演習（講演会）を実施しており、その際に社会のニーズを確認し、必要な場合は、修得目標の見直しを行う体制を整えている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

全学科の8割弱の学科において、カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科としての改善の必要性等の検討を行っている状態となっている。また、2割の学科にて、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している。

医療技術学部看護学科では、カリキュラムの有効性を検証するために、科目の順序性も重要であると考え、カリキュラムツリーの作成を検討している。

② 修得目標に対する有効性の確認

全学科の9割の学科において、 カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。さらに、8割の学科にて、カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている状態となっている。

理工学部バイオサイエンス学科では、今年度から1年生の科目として新しくラボインターンシップを開講し、実習やプレゼンテーションなどによってコミュニケーション能力や課題発見能力を向上させるカリキュラム体制を進めている。
理工学部情報電子工学科では、2022年度開講科目データにおいて平均GPAが低い科目の担当教員と学科長が面談を実施し、その原因について話し合う場を設けた。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

全学科の9割の学科において、修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析しており、さらに全学科の7割の学科にて、必要な情報を収集・分析した結果の活用方法を学科として検討している状態となっている。また、２割弱の学科が、収集・分析した結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている。

医療技術学部視能矯正学科では、学生の学修ポートフォリオの入力について、教員の指導のもと授業中に行い、95%を超える入力率となっている。初回の時は、複数の教員で使用方法について学生に説明した。
医療技術学部柔道整復学科では、卒業試験の実施に際して、今年度より各回の配分を変更し、学生のモチベーションが下がらないように工夫している。
文学部史学科では、学生向けに「卒業への道しるべ」を毎年刊行し、前年度の卒業論文からの優秀作と、卒業生からの就活・進学や仕事についての体験記を掲載している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

全学科の9割の学科において、就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っており、さらに全学科の6割の学科にて、学科として維持・向上のための検討・取組を行った結果、前年度より向上が見られている。

医療技術学部スポーツ医療学科救急救命士コースでは、LMSをプラットフォームにして、就職指導を展開している。
医療技術学部スポーツ医療学科健康スポーツコースでは、2年次後期の必修科目の時間を利用し、キャリアサポートセンターの協力のもと、4年生の内定者から就職活動の話を聞く場を設けている。
医療技術学部柔道整復学科では、国家試験の試験時間に合わせ、4年生は1限と4限に履修するような時間割編成としている。また、空きコマを意識的に作ることで、学内で自習するように促している。
福岡医療技術学部理学療法学科および診療放射線学科では、正課外の活動として、教員配置のもと、1年生から4年生で1つのグループを形成するゼミを実施しており、学年を超えた学生同士の縦の繋がりが国家試験対策において有効に機能している。
福岡医療技術学部作業療法学科では、解剖学の講義にVR人体解剖visible Bodyを導入し、3Dにより学生の理解度の向上を図った。さらに、臨床実習において、360度カメラを活用し、バーチャル施設見学のコンテンツ動画を作成した。
福岡医療技術学部診療放射線学科では、4年生に対して学会発表を推奨しており、今年度は20本程度の発表であった。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

すべての学科にて、授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している。さらに、全学科の6割の学科にて、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討も行っている状態となっている。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

全学科の8割弱の学科にて、学科として組織的に修得目標のシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている。また、全学科の２割の学科にて、学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている状態となっている。

この1年で、6割の学科が、教務委員を中心に組織的に修得目標のシラバスへの落とし込みを確認し、落とし込みが十分ではない科目の修正対応を進める体制を整えた。

② 担当教員間の調整

全学科の9割の学科において、シラバス作成にあたっては、組織的にまたは一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている状態となっている。また、2割弱の学科にて、シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている。

医学部 医学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
科目責任者に対し担当科目と新モデルコアカリとの関連付けの調査を行った。この結果を解析し、改善の必要性を検討して、2024年度のカリキュラムマップに反映させる予定である。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
今年度6年生に対する学修指導をより綿密にするともに、学習環境の整備を行った。最近の国家試験の傾向に鑑み、卒業試験のボーダーを上げた。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

薬学部 薬学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 視能矯正学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

【特筆すべき取り組み】
2022年度入学生から利用開始した学修ポートフォリオの活用を積極的に行っている。講義内で自己評価するよう促した結果1年後期の回答率は90.8%と高かった。今後も継続して修得目標の意識づけと達成状況の把握に活用する。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
既卒者の国試合格率は2年連続100%と卒業生に対する学習支援の効果が現れた。国試不合格者には特別研究生としての在籍を勧め、サポートした成果である。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 看護学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】
学生が修得目標に示されるパフォーマンスを明確かつ公正に評価できるようにするため、ルーブリック評価表を作成中である。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
・キャリアについて考察する目的として、4年時の科目「アドバンスセミナー」において少人数制のゼミ形式での学修サポートを行っている。また、「アドバンスセミナー」では、就職活動・国家試験対策に対する個別／グループ指導を実施している。
・国家試験合格率の維持・向上を目指した新たな取り組みとして、2023年度より以下を実施した。
a)看護師国家試験対策特別講座（講座）の学修効果を高めるために、対策時期を８月～12月へと間隔を広げ、学生が早期から計画的に国家試験対策の学修に取り組めるようにした。
b)講座の時期と内容を学生の学修進度にあわせるよう講座実施企業と調整した。
c）必要時、無料の模擬試験の案内のため、模擬試験等のパンフレットをファイリングして保管した。
d)低学年模試（2・3年生）について、2022年度より2年生に対してもアナウンスを行い、希望者を対象に実施した。
e)学生を指導する教員に向けたセミナー等の情報提供を継続して行っている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】
2023年度より、シラバスに掲載している「関連科目」の授業を聴講する仕組みを取り入れた。積極的に関連科目の科目担当者とコミュニケーションをもつことで、授業内容の重複の調整に向けて取り組み始めている。

医療技術学部 診療放射線学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【特筆すべき取り組み】
第2学年以上の学年において修得状況のチェックと面談による対応を行っている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】
カリキュラムの項目やレベルの修得状況確認のための科目を2年次以降に設けており、未達の学生について適宜面談を行っている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

【特筆すべき取り組み】
カリキュラムの項目やレベルの修得状況確認のための科目を2年次以降に設けており、未達の学生について適宜面談を行っている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率（または国家試験合格率）を把握し、学科として就職率（または国家試験合格率）維持・向上のための検討・取組を行っており、就職率（または国家試験合格率）が同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
就職状況についてホームルームや個別面談を通して学生に指導をしている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 臨床検査学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 スポーツ医療学科 救急救命士コース

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
帝京平成大学との合同就職対策および国家試験対策

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 スポーツ医療学科 健康スポーツコース

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
就職率や進路先決定率を現状維持、あるいは高めるために、入学当初からの学修ポートフォリオの活用や、就職活動の準備が始まる前の「基礎演習Ⅱ」において2年次春休みでのインターンシップへの参加や3年次からの就職活動に向けての準備をキャリアサポートグループと共同で講習会を実施している。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 スポーツ医療学科 トップアスリートコース

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
就職率や進路先決定率を現状維持、あるいは高めるために、入学当初からの学修ポートフォリオの活用や、就職活動の準備が始まる前の「基礎演習Ⅱ」において2年次春休みでのインターンシップへの参加や3年次からの就職活動に向けての準備をキャリアサポートグループと共同で講習会を実施している。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

評価対象

経済学部 経済学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】
当初17つあった修得目標を統合・削除し、学生が目標として把握できる数の10に厳選したため。構成・表現・レベルについては、昨年度の時点で検討済み。

【特筆すべき取り組み】
昨年度までは修得目標が17と多く、学生が目標として把握する上で問題があった。そのため10に厳選し、2023年度入学生から適用した。また、政府の方針及び企業のニーズに合わせてデータ分析に関する目標を2つ(修得目標5,6)、コミュニケーション能力に関する項目を3つ（修得目標8,9,10）配置した。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
すべての修得目標に対して科目を網羅的に配置し、政府の方針及び企業のニーズにも合わせたため。

【特筆すべき取り組み】
1, 目標への紐付けの変更を行ない、すべての修得目標に対して科目を網羅的に配置し、2023年度入学生から適用した。また、政府の方針及び企業のニーズに合わせ、コミュニケーション能力・課題解決力の向上を目指すディプロマポリシーDの中核科目として演習科目（ライフデザイン演習・基礎演習・演習：必修）を位置づけ、修得目標7～10を紐づけた。さらに、データ分析に関わる教育を拡充するため、修得目標5(データ分析)に39の科目を紐づけた。
2, 春期ガイダンス、及びライフデザインを使い、学科の重要科目であるミクロ経済学、マクロ経済学などの入門科目・基礎科目の計画的かつ体系的な履修を指導した。
3, カリキュラム外ではあるが、修得目標7～10に関わるカリキュラムの体系性を補完するために、演習での研究成果を発表する学部ゼミ研究報告会を毎年2回開催している。（それまで有志で行っていた報告会を2014年度より学部行事として正式に実施）。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
2019年度入学生のデータによれば、現在のカリキュラムマップにおいて、学生はすべての修得目標について、それぞれに紐づく科目を履修していることが確認できたため。また、内容が重複している科目や、学科教育の観点から重要性の低くかつ履修者も少ない科目について、2022年度から2024年度にかけて累計7科目の統合・廃止と1科目の選択必修から選択科目への移行を決定し、今後も統合・廃止の科目の検討中のため。

【特筆すべき取り組み】
22年度から3つの科目を閉講した。また、2024年度から4つの科目を新たに閉講することを決定した。また、1科目を選択必修から選択科目へ移行することを決定した。さらに、2つの科目についても、2024年度以降の閉講あるいは区分変更を検討中である。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】
自己点検自己評価において卒業アンケートの結果を学科の修得目標の達成度を測る評価指標として使い、選択必修科目の授業運営や計画的・体系的履修に活かす改善活動が定着しているため。

【特筆すべき取り組み】
1, 自己点検自己評価において卒業アンケートの結果を学科の修得目標の達成度を測る評価指標として使い、選択必修科目の授業運営や計画的・体系的履修などの改善活動に活かしている。
2, 選択必修の内、ミクロ経済学、マクロ経済学など中核的な科目を重点科目として選び、修得度を上げるための組織的な授業改善を進めた。教員の授業改善アンケートとその回答の情報共有を続けたことにより、ミクロ経済学、マクロ経済学の授業（1，2年次）においては、確認テストの回数を増やすなどの成果が得られた。また、1年次での選択必修入門科目16単位、2年次終了時点での基礎科目の履修率及び修得率について、2017年から2021年にかけて明確な向上がみられた。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる
【評価理由】 2020年から2022年度にかけて、就職率の改善がみられるため。
【特筆すべき取り組み】 1, 教員会議で、全教員に対して大学主催のキャリア支援プログラムにゼミ生を参加させるよう要請することで、全就活生がキャリア支援プログラムに参加するよう組織的に働きかけている。 2, 2023年度から経済学部でキャリアデザイン入門を必修科目とし、キャリア形成意識の醸成を早い段階から図っている（2023年度学生便覧pE4を参照のこと）。

③ 授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している
【評価理由】 毎年対象科目を設定して授業改善活動を学科で進めており、その際に個々の教員が授業評価アンケートの結果を適宜活用している。しかし学科として授業評価アンケートを組織的には活用していないため。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施
学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている
【評価理由】 学科として、教務委員会が修得目標とシラバスの整合性を確認する体制を 2023年度から整えたため。科目の到達目標が修得目標に紐づけられているか、 さらにはそれに対応した到達目標と授業内容が当該授業に盛り込まれているかを確認し、担当教員に適宜指導しているため。
【特筆すべき取り組み】 1, 教務委員会が修得目標とシラバスの整合性を確認する体制を 2023年度から整えている。科目の到達目標が修得目標に紐づけられているか、さらにはそれに対応した到達目標と授業内容が当該授業に盛り込まれているかを確認し、担当教員に適宜指導している。 2, 学科として重視している修得目標7～10に関わる授業を学科全体として行えているかを確認するため、ライフデザイン演習でのグループワークやプレゼンテーション等の実施状況を調査し、今後の課題を共有した。

② 担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている
【評価理由】 シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っているため。
【特筆すべき取り組み】 経済学の選択必修科目の中で、入門ミクロ経済学、入門マクロ経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、 国際経済学入門、 経済史概論（すべてⅠ・Ⅱとも）については、2023年度から同一科目内の全担当者間で、シラバスの内容共通化を進めている。

評価対象

経済学部 国際経済学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】
当初18あった修得目標を統合・削除し、学生が目標として把握できる数の11に厳選した。構成・表現・レベルについては、昨年度の時点で検討済みである。

【特筆すべき取り組み】
昨年度までは修得目標の数が多く、学生が目標として把握するうえで問題があった。このため11と数を絞って厳選し、2023年度入学生から適用した。また政府の方針、および企業のニーズに合わせてデータ分析に関連する目標を2つ（修得目標５・６）コミュニケーション能力に関連する項目を4つ（修得目標８・９・１０・１１）配置した。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
全ての修得目標に対して科目を網羅的に配置し、政府の方針、および企業のニーズにも合わせたため。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
2019年度入学生のデータによれば、現在のカリキュラムマップにおいて、学生は全ての修得目標についてそれぞれに紐づく科目を履修していることが確認できた。また内容が重複している科目や、学科教育の観点から重要性の低いもの、かつ履修者も少ない科目については今後も統廃合を検討中のため。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】
自己点検・自己評価において卒業時アンケートの結果を学科の修得目標の達成度を測る評価指標として利用し、選択必修科目の授業運営や計画的・体系的履修に生かす改善活動が定着しているため。

【特筆すべき取り組み】
・自己点検・自己評価において卒業アンケートの結果を学科の修得目標の達成度を測る評価指標として利用し、選択必修科目の授業運営や計画的・体系的履修などの改善活動に生かしている。
・選択必修のうち国際経済入門やミクロ経済学など中核的な科目を重点科目として選び、修得度を上げるための組織的な授業改善を進めた。1年次の入門科目、2年次の基礎科目の履修率及び修得率について改善が見られた。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【評価理由】
完成年度1年目の2022年度のデータしかなく、改善の傾向については把握できないが、他学科と比較して相応の数値を示しているため。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

【評価理由】
毎年、対象科目を設定して授業改善活動を学科として進めており、その際に個々の教員が授業評価アンケートを適宜活用している。しかし、学科としての組織的な活用は行っていないため。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施
学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている
【評価理由】 学科として、教務委員会が修得目標とシラバスの整合性を確認する体制を2023年度から整えた。科目の到達目標が修得目標に紐づけられているか、さらにそれに対応した到達目標と授業内容が当該授業に盛り込まれているかを確認し、担当教員に適宜指導しているため。
② 担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている
【評価理由】 教務委員会が中心となり、選択必修科目について、複数の担当者がいる同一科目の調整を2023年度シラバスから組織的に進めているため。
【特筆すべき取り組み】 経済学の選択必修科目のうち、入門ミクロ経済学、入門マクロ経済学、ミクロ経済学、マクロ経済学、国際経済学入門、経済史概論については、2023年度から同一科目内の全担当者間で、シラバスの内容共通化を進めている。

評価対象

経済学部 経営学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】
配布された「4-3.2019年度入学2022年度卒業生修得目標や履修者数に関するデータ(経営学科)」を見ると、「学生一人当たりの取得科目数」が0科目となっている人数が0人になっていない目標が4つあり、このうち修得科目4は1名、修得科目6は6名でごく少数であるため、この二つも目標達成と含めれば14の目標の12が達成できたことになり、大半は達成できたと言える。なお、全ての修得目標に対して、構成・表現、レベルの適切性については、昨年度検討したこと踏まえ、今年度このような結果が得られたと考えている。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

【評価理由】
2019年度、2022年度、2023年度入学生の「修得目標や履修者数に関するデータ」の「①修得目標ごとのカリキュラムデータ」を検討したところ、各年度の各修得目標のための科目が、すべての修得目標においてきちんと配置されていることを確認できた。また、「2019年度入学2022年度卒業生修得目標や履修者数に関するデータ」の「②履修者数等データ入りカリキュラムマップ」を見ると、2019度入学生(2022年卒業)は、TAEP関連科目などごく一部の科目を除いて、修得目標と関連付けられた科目のほぼ全てにおいて履修者がいることを確認できた。2022年度入学生、2023年度入学生においても配当年次の範囲内で確認できたことから、本学科のカリキュラムは網羅的に配置されているものと考えられる。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

【評価理由】
体系性は確保できているものの、卒業生で各修得目標のうち単位を取得していない学生が存在する修得目標に7と10がある。また、「卒業生卒業時調査2022速報値【経済学部】」によると、「7.」と関連がある「[Q21]所属学部の学問分野に必要な「専門的」な知識・技能」で「とても増えた」「増えた」は55.3%、「10.」と関連がある「[Q26]情報技術（ICT）の運用力」では「とても増えた」「増えた」は40.1%とやや低いと思われるため、評価は2とした。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】
「4-3.2019年度入学2022年度卒業生修得目標や履修者数に関するデータ(経営学科)」の「「①修得目標ごとのカリキュラムデータ」における4年生の累積GPAを見てみると、すべて2点台を上回っており、平均すると2.39となっている。このことから、各修得目標ともきちんと達成されていると言える。また、「3-1.2022年度授業評価アンケート（経営学科）」の結果によると、「問7あなたは、この授業の到達目標を知っていますか」では、「よく知っている」「まあ知っている」を合わせると76.0%、「問8この授業の到達目標は達成できましたか」では「達成できた」「ほぼ達成できた」を合わせると68.5%に達している。さらに、「[Q7]所属学部の専門教育科目の授業内容」の結果によると、「とても満足」「満足」を合わせると83.9%に達しており、上で述べたGPAの平均値を踏まえれば、本学科における修得目標はきちんと達成できていると考えられる。

【特筆すべき取り組み】
これまでも行っているライフデザイン演習や基礎演習などでの履修指導を工夫・強化し、学生が自分の適性に合った科目を履修し学修することで、修得目標を達成できるようにしていく。また、情報共有のために教員間の連絡を強化することで、収集・分析した情報を活用するようにする。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【評価理由】
「1.2023年度教学に関する基礎データ一覧」にあるとおり、2020年の就職率は70%、2021年は69%、2022年は81%と大幅に向上しており、前年度より向上が見られるため、このような評価とした。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

【評価理由】
教員各自でアンケート結果を閲覧しているものの、その結果を組織的に学科内で共有したり、活用するためのシステムの構築には至っていない。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施
学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている
【評価理由】 シラバス作成に合わせて、経済学部では修得目標対応表を配布しており、各教員は自分の担当科目がどの修得目標に対応しているかを確認してからシラバスを作成するように指示されている。また、原稿が提出されたシラバスについて、経営学科の教務委員担当者が経営学科の専任教員が担当している科目をすべてチェックし、修得目標との紐づけや表現に至るまで確認した。そして問題がある場合は、教務主任がシラバスを作成した教員に修正を指示し、修得目標との紐づけがきちんと行われるように対応した。このようなことを踏まえ、評価は3とした。

② 担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている
【評価理由】 経営学科の教員が担当している学部入門科目のシラバス作成の際に、教員間で教育内容に関する情報を共用して、修得目標との紐づけ、科目の内容の調整や統一を図っている。今回は、経営学科にとって最重要科目といえる「経営学総論Ⅰ・Ⅱ」において、担当教員全員に「経営学総論Ⅰ・Ⅱについて」という文書を配布し、シラバスの作成当初から内容の調整、共通化を図った。

評価対象

経済学部 観光経営学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】
教務委員及びFD委員を中心としたワーキンググループを立ち上げた。ワーキンググループ内で「修得目標の策定・更新に係るガイドライン」に従い、現在の修得目標について審議した。その結果、現状では学科修得目標の変更の必要性はないと判断した。以上から、本項目は「3」に該当すると評価した。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
ワーキンググループで、カリキュラムマップの内容を点検し、修得目標とそれに紐づく科目数について点検を行った。修得目標5、9、18に配置される科目数が10未満であった。修得目標5、9、18を中心に、修得目標と科目の紐づけを再検討した。その結果、「観光実習（空港）」「観光学実習（エコツーリズム）」「観光学実習（観光施設）」「観光学実習（都市観光）」「入門観光学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を修得目標5に、「卒業論文Ⅰ・Ⅱ」、「演習Ⅰ・Ⅱ」、「観光学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」を修得目標9及び18に紐づけることが決まった。
本変更は2024年度入学生から適用とする。以上から、本項目は「3」に該当すると評価した。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【評価理由】
ワーキンググループで、修得目標とそれに紐づく科目の単位取得数（卒業生1名あたり）を算出し、著しく単位取得数が少ない修得目標が無いか点検を行った。その結果、卒業時までに全ての修得目標について平均2科目（通年）以上の科目の単位を修得していることを確認した。以上から、本項目は「3」に該当すると評価した。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】
ワーキンググループで、修得目標とそれに紐づく科目の単位取得数（卒業生1名あたり）及び合格率を算出し、著しく合格率数が低い修得目標が無いか点検を行った。その結果、全ての修得目標の合格率が90%を超えていることを確認した。以上から、本項目は「3」に該当すると評価した。

【特筆すべき取り組み】
学科のFDの一環として、4年次の選択必須科目（総合観光経営、観光経営学特殊講義）の受講生を対象に、修得目標の達成度を自己評価してもらい、継続的に達成度を確認する。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【評価理由】
ワーキンググループで議論を行った。総合旅行業務取扱管理者（国内・総合）の合格者数（概数）把握のため、キャリアサポートGに合格者数（検定料補助申請者数）についてヒアリングを行うこととなった。以上から、本項目は「2」に該当すると評価した。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

【評価理由】
科目ごとの授業評価アンケートの回答率について、各教員から情報をヒアリングし、集計している。以上から、本項目は「2」に該当すると評価した。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施
学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている
【評価理由】 観光経営学科では教務委員を中心し、観光経営学科の専門科目のシラバスを点検している。また、点検の結果、修正が必要と判断された科目については、担当教員とコンタクトを取り、修正依頼を行っている。以上から、本項目は「3」に該当すると評価した。
【特筆すべき取り組み】 学科内でのFD委員によるFD研修会を実施。

② 担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている
【評価理由】 「総合観光経営Ⅰ・Ⅱ」及び「基礎演習Ⅰ・Ⅱ（2024年度以降）」において、担当教員間でのシラバスの調整が必要であることが判明した。「総合観光経営Ⅰ・Ⅱ」については担当教員間で定期的に情報交換を行うこと、「基礎演習Ⅰ・Ⅱ（2024年度以降）」については、教務委員を中心に学科としての共通シラバス案を作成することになった。以上から、本項目は「2」に該当すると評価した。

評価対象

経済学部 地域経済学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

【評価理由】
構成・表現の妥当性や目標レベルの確認については、変更・修正の必要性やその内容について、学科会議を通して教員間で意見交換を実施し検討している。しかしながら、社会的な要請や学生のニーズを反映して修得目標の適切性を検証する段階には至っていないため、3と評価した。

【特筆すべき取り組み】
定期的に実施する「地域経済学科・地域経済政策学専攻教員会議」に加えて、「点検・評価に係る臨時学科会議」を前期に2回開催した。これらの会議において、修得目標の構成・表現、レベルの適切性およびガイドラインの確認を行なった。さらに、社会的な要請や学生のニーズ調査のため、本年度は卒業生の就職先企業等へのアンケート調査、また卒業生へのヒアリング調査に取り組んでいる。その結果による改善の検討は来年度行う予定である。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【評価理由】
修得目標の体系性は、十分な検討を行って作成しており、本年が未完年度であると共に、現時点での課題は無いことから評価を4とした。

【特筆すべき取り組み】
定期的に実施する「地域経済学科・地域経済政策学専攻教員会議」に加えて、「点検・評価に係る臨時学科会議」を前期に2回開催した。これらの会議において、修得目標の体系性に関し確認し、変更・修正の必要があるかについて意見交換を実施した。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【評価理由】
修得目標の有効性は、十分な検討を行って作成しており、本年が未完年度であると共に、現時点での課題は無いことから評価を4とした。

【特筆すべき取り組み】
定期的に実施する「地域経済学科・地域経済政策学専攻教員会議」に加えて、「点検・評価に係る臨時学科会議」を前期に2回開催した。これらの会議において、修得目標の有効性に関し確認し、変更・修正の必要があるかについて意見交換を実施した。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【評価理由】
修得目標の達成度合いは、演習科目内で学修ポートフォリオを実施して行うこととし、2022年度後期から運用を開始した。しかしながら、学生の入力が不十分で修得目標の達成度合いを測るまでに至らないという問題が発生したため、評価を3とした。

【特筆すべき取り組み】
定期的に実施する「地域経済学科・地域経済政策学専攻教員会議」に加えて、「点検・評価に係る臨時学科会議」を前期に2回開催した。会議において、学修ポートフォリオは期初のガイダンス期に入力の時間を儲け、入力不足はライフデザイン演習で個別教員がフォローしているものの、今後に向けてより良い方法がないかを検討した。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組
就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している
【評価理由】 地域経済学科の就職率は極めて高い水準にあり、現時点での課題は無い。
【特筆すべき取り組み】 就職率は学科会議で共有し、課題があれば意見交換を行うようにしている。さらに、①演習科目の担当教員が就職活動の開始時期以降に、3年生全員を対象とした個別面談を行い指導している。②4年生による就職アドバイス会を実施する（一部の演習で実施）、③SPIのアドバイスをする（一部教員が実施）、④学生の希望があれば就職活動中に面接対策や相談に応じる（面接は実務系教員が実施）、など細やかな対応を随時行っている。また、卒業生の就職先企業等に訪問して、連携やニーズに関するヒアリングを行っている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用
授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている
【評価理由】 授業評価アンケート結果は、各教員が活用しているだけでなく、本年度は学科としても改善点の検討を行った。ただし、改善点の取り組みは来年度となるため評価を3とした。
【特筆すべき取り組み】 定期的に実施する「地域経済学科・地域経済政策学専攻教員会議」に加えて、「点検・評価に係る臨時学科会議」を前期に2回開催した。これらの会議において、事前・事後学習や授業準備に関するグッドプラクティスを共有する機会を今年度中に設けることとした。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施
学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている
【評価理由】 シラバスへの落とし込みを確認する体制が整っているものの、作業量が膨大で確認漏れが発生する可能性もあることから、評価を3とした。
【特筆すべき取り組み】 シラバス作成前に「地域経済学科・地域経済政策学専攻教員会議」でシラバス記載の際の注意点や学科における記載の方向性などを確認し、シラバス入力後に学科長と教務委員でその確認作業を実施している。

② 担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている
【評価理由】 複数教員がもつ同一科目は演習系科目のみで、科目の内容の調整や統一は定期的に「地域経済学科・地域経済政策学専攻教員会議」等で図っていることから、評価を3とした。
【特筆すべき取り組み】 科目の内容の調整や統一はカリキュラムの作成や確認を通して学科長・教務委員が調整の素案を検討し、定期的に「地域経済学科・地域経済政策学専攻教員会議」等で教員間の意見交換を実施している。内容の統一が最も必要と考えられるライフデザイン演習については、次年度から教員間でクロスチェックを行い、入力後の内容の調整や統一を確認することとした。

法学部 法律学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
帝京大学における団体受験の実施（霞が関キャンパスを利用）。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

法学部 政治学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、他学部・他学科と比較した際の自学科の位置づけを確認している

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている

文学部 日本文化学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
学科FD活動の一環である授業内容改善委員会にて、昨年度から継続して「授業評価アンケートデータ」の結果を分析し、来年度以降に向けた必要な対策について講じている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
学科独自で行っている就職活動支援は以下の通りである。
・「就職内定者との交流会」の開催
・「文系学生のためのIT業界就活講座」の開催
・2023年度卒業生に向けた就職活動状況のアンケート調査の実施
・「就活サポート強化月間」の実施
・内定者の４年生を対象としたアンケート調査の実施
・留学生の進路調査の実施

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

【特筆すべき取り組み】
本学科独自のFD活動の一環である授業内容改善委員会を中心に、時間外学修の向上等の取り組みを提案し、継続して学科内で授業内容改善策を共有している。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

文学部 史学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
・自己点検・自己評価活動の一環として、ディプロマポリシーごとの達成度合いを「学修行動調査」等で把握し、それを引き上げるために教員間で共通した取り組みを行っている。
・学生向けに紀要『卒業への道しるべ』を1995年以来、毎年刊行している。前年度の卒業論文のうち優秀作から各指導教員が選出した論文数本を掲載している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
史学科では、就職・キャリア支援委員が中心となって、卒業生の就職率や3年生を対象とした全員面談実施率等に関する情報の共有化を教員間で進めている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

文学部 社会学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
到達目標の授業内での確認による学生への周知が必要であることを学科で共有し、その実行を呼びかけている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
FDの機会に「エントリーシート指導法の勉強会」や「ワンランク上のエントリー対策」などの情報共有をはかるなど、組織的に就職率向上に取り組んでいる。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

【特筆すべき取り組み】
学科会議において事前事後学修の時間の数値、および到達目標の学生への周知と授業における到達目標の達成度合いに関わる数値が低い旨を学科教員全体に説明したうえで、授業内で十分な説明を行ったり何かしらの工夫をしていただけるよう対策を要請した。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

文学部 心理学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

【特筆すべき取り組み】
修得目標の数が24と多く、学生にとって、把握しづらい可能性があった。また、一部の修得目標では、１年次・２年次において、紐づけられる科目数が不十分であった。これより、修得目標の絞り込みを行い、17目標へと削減し、紐づけられる科目の体系性をより明確にさせた。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
今年度から新開講された文学部共通必修科目「ヒューマニティーズ入門Ⅰ」については、４学科それぞれの授業評価アンケートを、担当した４名の教員が共有し、成績評価と照合しながら、分析を行った。文学部４学科の特性を学科横断的に検討できる貴重な機会であり、今後も継続して行っていきたい。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

外国語学部 外国語学科（英語）

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

外国語学部 外国語学科（ドイツ、フランス、スペイン、中国、コリア語）

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】
コリア語コース言語必修科目における統一シラバスの作成及び講師会における周知徹底

外国語学部 国際日本学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

一部の修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・確認をしている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、他学部・他学科と比較した際の自学科の位置づけを確認している

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】
2023年度は高等教育開発センターのSoTLプロジェクトとして「国際日本学を学ぶ」の内容の調整や統一を図る取り組みを進めている。

教育学部 教育文化学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

【特筆すべき取り組み】
ディプロマポリシーに紐づけた学修目標の主観的達成度を教育学部学生生活実態調査で継続的に調査し、その結果を学部FD活動で共有・議論している。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】
学生の主観的な修得目的等については、教育学部が毎年実施している学部学生生活実態調査によって調査が行われている。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

【特筆すべき取り組み】
学生の主観的な達成状況については、教育学部が毎年実施している学部学生生活実態調査によって調査が行われている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

【特筆すべき取り組み】
企業が重視する能力について、学生の主観的な達成状況を教育学部が毎年実施している学部学生生活実態調査によって把握している。学部FDでの調査結果の共有や、自己点検・自己評価報告書での取りまとめを行っている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
2023年度前期に必修の教育学演習・卒業研究の授業内でキャリアサポートセンターのガイダンスを実施した。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

教育学部 初等教育学科 初等教育コース

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
学科のディプロマポリシーを反映した修得目標と関連する資質・能力の主観的達成度を教育学部学生生活実態調査で継続的に調査し、その結果を学部FD研究会等で共有・議論している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
各授業科目の中で、当該科目の目標が修得目標にどのように関連しているのかを説明し、学生の自覚を促すように働きかける取り組みを継続している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
教職・保育関係職の就職希望者については、教職センター、こども教育総合センターと連携し、就職先獲得の支援をきめ細やかに行っている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

教育学部 初等教育学科 こども教育コース

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
学科のディプロマポリシーを反映した修得目標と関連する資質・能力の主観的達成度を教育学部学生生活実態調査で継続的に調査し、その結果を学部FD研究会等で共有・議論している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
各授業科目の中で、当該科目の目標が修得目標にどのように関連しているのかを説明し、学生の自覚を促すように働きかける取り組みを継続している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

【特筆すべき取り組み】
教職・保育関係職の就職希望者については、教職センター、こども教育総合センターと連携し、就職先獲得の支援をきめ細やかに行っている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

理工学部 機械・精密システム工学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
大学の就職支援情報の周知のため。コース必修科目（機械/自動車工学実験）のLMS上で掲示を行っている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知する機会を設けている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている

理工学部 航空宇宙工学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認だけでなく、社会的な要請や学生のニーズも学科独自に調査し、取り入れている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

理工学部 情報電子工学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
科目によって単位修得率やGPA平均が低いことに関しては現状と原因を教科担当者と面談し、改善を求めている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

【特筆すべき取り組み】
学科独自にLMS上で学修行動調査アンケートを実施している。（2022年度1年生21.5%から2023年度94%に増加）

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
就職支援の強化を学科の目標とし、期初面談で各教職員に取り組みを明示し、実践して頂いている。
基本情報試験は担当者だけに頼らず学科として支援している。
3年後期から学科独自のキャリアの授業（キャリア形成準備）を開講し、組織的に就活の支援を強化している。
2年次と3年次の初めのガイダンスなどを活用して、履歴書や学チカを担任が指導し、準備を進めている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

理工学部 バイオサイエンス学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
1年生からコミュニケーション能力を発揮できるように「ラボインターンシップ」を開講しアンケート収集をしている。今後授業の改善に利用する。修得目標ごとのカリキュラムデータよりどの学年も科目は網羅的に配置されている。また、卒業研究の早期着手を目指し、「バイオゼミナール」を開講予定にしている。今年度は試験的に卒業研究配属を早め修正・改善をはかる。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
1年生のコミュニケーション能力や課題発見能力を修得させるために今年度から新しくラボインターンシップを開講し、実習やプレゼンテーションなどによってこうした能力を発揮できるカリキュラム体制を進めている。これらの能力は卒業後のアンケートデータからも直接仕事に知識が関わらなくても取り組み方、新しい仕事への足がかりとして活用できていることが認められている。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
・外部英語検定の受験については、実用英語（バイオサイエンス英語）の講義において成績評価の一部に取り入れることで、受験を促す仕組みを作っている。
・実習系科目については、研究室での実習を体験するラボインターンシップとして１年前期の集中講義として2023年度から開講した。
・2023年度から卒業研究の配属時期の早期化に取り組み、2024年度からは３年後期のバイオサイエンスゼミナールも開講されるので、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上につながることを期待している。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
1年生の実習科目「ラボインターンシップ」を開講し、初年次から進学・就職への意識を高めるように進めている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

【特筆すべき取り組み】
アンケート項目７、８の改善のため、2023年度後期から、初回および試験の直前にシラバス記載の修得目標（DP）との関連性、授業の到達目標を学生にアナウンスするようにした。学生の到達目標の理解度、自己評価の向上、修得目標の自己評価の向上につながるかを今後検証していく。

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施
学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている
【特筆すべき取り組み】 2022年度まではシラバスのチェックを教務委員のみで行っていたが、2023年度は学科の教員すべてで分担して行った。全科目の一覧を元に分担表を作成し、シラバスに設定された修得目標が記載されているかを重点的にチェックし、記載漏れがある場合には担当教員に修正を依頼した。チェックする授業科目は教員の専門分野にこだわらず、あえてランダムに科目を分担することで、普段目にしない分野のシラバスを読むことになり、シラバスの書き方の参考になったという好意見も得られた。

② 担当教員間の調整
シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている
【特筆すべき取り組み】 2023年度のシラバスでは、卒業研究および、主な学生実験（生化学実験、微生物学実験、生物有機化学実験、食品科学実験、動物生理学実験、環境衛生学実験）において統一的なルーブリックを作成して、レポート等の評価の統一を図った。

理工学部 情報科学科通信教育課程

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
社会心理学とデータサイエンス概論を新設した。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果を学科として修得目標の見直しや教育課程の改善に活用できている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、前年度より向上が見られる

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

医療技術学部 柔道整復学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

【特筆すべき取り組み】
2024年度からのカリキュラム変更と臨床実習施設（八王子キャンパス75%、宇都宮キャンパス25%）の変更を行った。臨床実習を3年までに終了し、国家試験対策の時間を確保をした。

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
臨床実習施設を変更することによって、必修問題対策に対応できるようにした。八王子キャンパスでの臨床実習を1週間大学施設に宿泊して実施するようにし、八王子キャンパスでの実習回数を増やした。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
医師科目である外科を4コマから2コマに減らし（2024年度は4コマから1コマに減）、解剖学と生理学を4コマ減らし、柔道整復科目を増やした。それによって国家試験対策に対応し、免許取得後に通用する実学教育を行えるようにした。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
2024年度からの新カリキュラム導入して国家試験対策科目を増やす。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
国家試験の時間リズムに合わせ、1限目と4限目に授業時間を入れている。空きコマは自習できるようしている。このシステムによって、グループ校である帝京平成大学千葉キャンパスは国家試験の合格率が55%から90%に上昇しており、それを8年間維持している。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図るための検討を行っている

【特筆すべき取り組み】
学科会議内での実技科目と座学科目の内容連絡をおこなう。

福岡医療技術学部 理学療法学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等を検討した上で検討結果をカリキュラムマップに反映している

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
「修得目標ごとのカリキュラムデータ」「2022年度開講科目一覧データ」を全専門教員に配信し、各科目における成績と学生の自己認識のズレを確認した。修得目標ごとのGPAと自身の科目との関連を確認した。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
1）LMS使用について
基礎学力の向上を目指し、共通及び専門一般分野（1点問題）の問題をオンデマンドで実施出来る様に整備している。問題は、過去16年分プールされており、その中から各分野「50問」抽出され、30分間で終了する様に設定し、「速読力」の向上を目指している。
2）実地問題について
3点問題（専門実地）の正答率を上げる事が、合格に直結する為、試験直前の1月中に各専任教員が集中講義を実施している。対象は、基本全員ではなく各分野の正答率下位学生としている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

【特筆すべき取り組み】
2022度にカリキュラムマップに個々の科目の到達目標を入れ込み、「カリキュラムマップ＿到達目標入り」を作成した。これにより、修得目標がシラバスに落とし込まれているかについて学科教務委員による確認を行い、不十分な科目については2023年度シラバスの到達目標を修正した。今後各科目において、修得目標との紐づけや到達目標が変更された場合には、「カリキュラムマップ＿到達目標入り」を更新していくこととなった。

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目および同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

【特筆すべき取り組み】
同一修得目標に紐付いている基礎理学療法学演習Ⅰ-Ⅲ、理学療法学総合演習については、基本的に毎年内容を学科会議にて確認し、調整を図っている。

福岡医療技術学部 作業療法学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集分析し、その結果の活用方法を学科として検討している

【特筆すべき取り組み】
基礎医学について正規カリキュラム外での補講、学修時間を設定し、組織的に強化学修を行っている。

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持向上のための検討取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
国家試験対策については各学年にてカリキュラム外に時間を設定し学修指導を行っている。また4年次にはカリキュラム内に国家試験対策の科目も設定し強化を行っている。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科として組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、現状で落とし込みが十分ではない科目が把握できており、修正等の対応を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

福岡医療技術学部 看護学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討を行っている

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を学科・コース単位で分析し、教育課程の改善に向けて、どのように活用するか検討を行っている

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

福岡医療技術学部 診療放射線学科

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

一部の修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性の検証を行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかの検証し、学科としての課題を把握している。

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科としての課題を把握している。

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・確認をしている

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
ペア学修、板橋キャンパスとの合同模試

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている

福岡医療技術学部 医療技術学科 救急救命士コース

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

学科としてシラバスへの修得目標の落とし込みに関するルールや基準を設けていることに加えて、組織的にシラバスへの落とし込みを確認する体制が整っており、実際にすべての専門科目で修得目標が落とし込まれていることが確認できている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、組織的に同一科目の内容の調整や統一を図っている

福岡医療技術学部 医療技術学科 臨床工学コース

2023年度　点検・評価報告書

1. 修得目標の策定・見直し

① 構成や表現の妥当性や目標としてのレベルの確認

すべての修得目標に対して構成・表現、レベルの適切性を検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている。検討にあたっては、ガイドラインの確認を中心に行っている

2. カリキュラムの体系性・有効性の確保

① 修得目標に対する体系性の確認

カリキュラムの体系性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して科目が網羅的に配置されているかを検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

② 修得目標に対する有効性の確認

カリキュラムの有効性を確認するための情報を確認した上で修得目標に対して各科目の役割が明確かつ有効的に配置されているか検証し、学科として改善の必要性等の検討を行っている

3. 学修成果及び教育成果の評価

① 学生の修得目標の達成度合いの把握

修得目標の達成度合いを測るために必要な情報を収集・分析している

② 就職率（・国家試験合格率）の向上に向けた取組

就職率または国家試験合格率を把握し、学科として維持・向上のための検討・取組を行っており、同種学部の全国平均（当該国家試験の全国平均）以上を維持している

【特筆すべき取り組み】
・低学年からの国家試験対策を履行中。
・卒業年度生には年度早期からの成績不振者の把握と個人指導を履行中。

③ 授業評価アンケートの分析・活用

授業評価アンケートの結果を教員個人単位で分析、活用している

4. シラバスの作成・改善

① 組織的なシラバスチェックの実施

修得目標のシラバスへの落とし込みについて、FD等で学科の教員に周知しており、実際に整合性が取れているかを確認するための体制の整備を進めている

② 担当教員間の調整

シラバス作成にあたっては、一部の教員間では同一科目や同一修得目標に紐づく科目の内容の調整や統一を図っている